

平成22年度 森プロ事業実績：林建協働プロジェクト

(平成23年3月末現在)

	H21年度	H22年度			5カ年
	実績	計画	実績	達成率	備考 計画
集約化(ha)	0	346	281	81.2%	482
作業道(m)	0	3,130	1,930	61.7%	26,400
間伐等	面積(ha)	0	0	0%	393
	材積(m3)	0	0	0%	16,160
備考	作業道支障木639m3				

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 5,250 円/m3

施業集約化の状況

＜高山市有林＞

- ・高山市と「林業・建設業協同事業体との施業実施協定」を締結した。
- ・「林業と建設業との施業モデル団地」5ヶ年事業実施計画書を策定した。

＜自治会所有林＞

- ・具体的な事業計画書を作成、自治会長へ説明し承諾を得た。

＜宗教団体所有林＞

- ・具体的な事業計画書を作成、担当者へ説明し承諾を得た。

＜県行造林＞

- ・県営林提案型施業モデル事業(清見県行造林地区)プロポーザル募集に参加した。委託業務企画提案書をもってヒアリングに臨み契約締結予定者として通知された。

施業プランの活用状況

(H22年度は作業道開設のみ実施のため該当なし)

施業プランナーの養成状況

- ・(岐阜県)H22年度施業プランナー養成基礎研修を1名受講、修了

作業道の状況

- ・幹線5路線支線2路線を計画、幹線3路線完了、他はH23年度へ繰越として施工中。
- ・幹線の幅員は3.6mとし、8tトラックの走行を考慮。なお、木材運搬先の県森連飛驒共販所へは事業地から国道走行で10kmの距離にあり、中間土場を設置することなく集積箇所からの直送とした。
- ・作業ポイントを各所に設置し、スイングヤード設置及び木材集積に利用することとした。
- ・35度以上の急傾斜地や国道直上など盛土が施工できない箇所が多く、切土主体となり残土処理に労力がかかりコスト抑制には繋がらなかった。
- ・土工事で発生した礫質土などを路盤材として有効利用したことによりクラッシャーランなどの購入資材を節減した。
- ・路面の横断排水は木製横断溝(シスイエース)を利用し、流末箇所には転石などを設置して分散排水に努めた。
- ・縦断勾配はトラック走行に配慮し、12%以下を基本とした。

＜施工中の濁水調査＞



＜ハザードマップによる注意喚起＞



＜デモ機試行施工(バケット・グラブ用機)＞



＜施工状況＞



その他

- ・林建協働の取り組みに関する視察依頼が多く、建設業者による林業介入に理解を得られるよう、PR活動に努めた。



- ・ホームページ開設 URL <http://www.takayama-rinken.com>
- ・建設業を本業とする作業従事者に対し、支障木伐採や造材、作業道出来形測量等に関する各種研修会を開催し、林業土木技術研鑽に努めた。

＜造材研修会＞



＜作業道測量研修会＞





### 森プロの成果

- ・建設業者が作業道開設工事における全工程を自ら実施し、低コスト施工に向けたさまざまな課題を列挙しながら県などの対策指導を受け、今後に向けた改善策を整理した。
- ・高性能林業機械を自ら購入もしくはレンタル予約等により素材生産体制を整備した。

＜建設業者による支障木伐倒＞



＜自社購入のグラップル＞



### 今後の課題

- ・低コスト化と安定路盤を両立させた路網整備技術の習得
- ・高密度路網を利用した利用間伐技術の習得
- ・建設業者による集約化と施業プラン立案